小学校高学年における教科担任制の充実

中核校	名寄市立名寄東小学校	指定校	名寄市立名寄小学校、名寄市立智恵文小学校 名寄市立名寄東中学校、名寄市立智恵文中学校

■　実践前の状況

・児童が主体的に観察、実験などを行い、問題解決することが十分ではなかった。
・低位層の児童を中心に、知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成に課題があった。

■　実践の概要

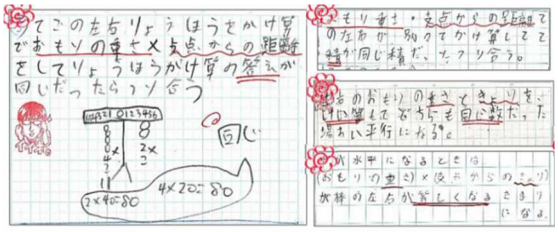
○　教科の特性を生かした授業改善及び１人１台端末の日常的な活用

・児童が設定した課題について探究する時間を確保するとともに、観察、実験の結果をグループや学級全体で交流し、考察する場面を位置付けることにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った。
・端末を活用し、予想や調査活動の内容、観察、実験の結果等を交流することにより、児童が主体的に問題解決しようとする態度の育成を図った。
・理科通信を発行し、児童の学びを価値付けるとともに理科の学び方について児童と共通理解を図った。

【ロイロノートを活用した成果物の作成と共有】

○　学級担任の業務の軽減及び効率化

・専科教員と学級担任が児童の実態や学習の進度などについて密に連携を図ることにより、専科教員が単独で授業を行っている間に、学級担任が教材研究や校務分掌の業務等を行うようにした。


【理科通信での学びの価値付けと学び方の共有】

■　実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

・専科教員と学級担任それぞれの業務が円滑に進むよう、授業内容や評価などについて話し合う場を週１回設けるなど、連携を図る機会を確保した。

〔専科教員の取組〕

・専科教員が学習活動の意図を自覚し、見通しをもって授業を進めることができるよう、学習指導案に、個別最適な学びの場面と協働的な学びの場面を明記した。
・知識・技能の定着とともに思考力・判断力・表現力等の育成を図ることができるよう、学習のねらいや内容に応じて、統一した様式を用いたり児童に委ねたりするなど、学習のまとめ方の自由度を変えた。
・学習内容や学び方について幅広く共有できるよう、理科通信に専科教員が巡回する各学校の様子を掲載した。

■　成果（○）と今後の課題（●）

○　端末を活用した問題解決の活動を進めたことにより、児童が自分に合った学習方法を選択するなど、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
〔児童アンケート：「理科の授業が楽しい」第４学年 80%、第５学年 85%、第６学年 82%、「理科の学習が分かる」第４学年 91%、第５学年 84%、第６学年 81%〕

○　専科教員と学級担任がそれぞれの業務に専念できたことにより、業務の負担軽減が図られた。
〔教職員アンケート：「働き方改革（肯定的評価）」85%、「専科の授業中に業務が進んだ」100%〕

●　今後さらに、児童が自分の考えを表現することができるようにするとともに、知識・技能の確実な定着を図る必要がある。